

エッセイ部門優秀作品

大阪府貝塚市 志川さま

「博多 2060 年、アジアの中心へ」

C氏は2009年生れ、51歳。C氏のように博多と釜山、上海を往来する人々は数多い。彼らは「博多ist(ハカティスト)」と呼ばれる日中人であり、日韓人でもある。事実C氏は釜山生れの博多育ち。日本でチバさん、韓国ではチョンさんの愛称で呼ばれる日韓人だ。

博多istの存在を可能にしたのは日韓リニア新幹線だ。その2055年開通で釜山 博多間は1時間。これで九州+韓国のGDP130兆円、つまり首都圏南関東の140兆円に匹敵する日韓経済圏が成立。その背景に青函トンネル54kmの掘削技術と経験がある。壱岐水道20km、対馬海峡東水道48km、さらに国境越えの海峡部48km。ドーバー海峡34kmを抜け、ロンドンーパリを2時間余で駆けるユーロスターを越える鉄道技術が日本にある。また道州制が成立。博多が九州府の州都となり、特別市に指定されたことも発展に寄与。戦国時代の自治都市で、町人町でもある自由都市博多の歴史的蓄積が、多国籍都市化に役立った。

今日もC氏はリニア新幹線でソウルまで日帰り出張。博多特別市駅前に下り立つと超高層ビル群が出現。しかも那珂川、御笠川には広大なグリーンベルトが広がる。博多特別市は、公共交通中心で駅前に機能が集積したコンパクトシティだ。道路もアスファルトでなく自然素材で舗装。C氏は同駅から徒歩5分で56階に帰宅。空中農園で採れた露地モノ野菜や那珂川河畔のハイテク魚場で育った鱒をキムチでくるみ、焼酎で一杯やるのがC氏の楽しみだ。2km四方の面積の博多特別市で採れた食材が中心で、廃棄物も市内で処理。ゴミから出たバイオガスや太陽光による発電と水素自動車が街を支える。ワインやキャビアを空輸し、大型発電所と送電システムでエネルギーを供給する時代は終わった。

最後に博多ist C氏の略歴を披露しよう。彼は博多アジア州立大学卒。その国際感覚は子供の頃より、教師の日中韓交流・交換制度、大学の国際単位互換制度、環境・経済交流・ICTなど一国では解決が難しい課題への国際共同教育・研究プロジェクトなどの下で育てられた。C氏が異文化と異分子に寛容な訳は、州政府の教育外交に秘密がある。

*

このように博多駅前が、アジア・九州の中心核となり、自由都市を支える気概溢れる博多istを育み、日中韓を主導するいわば新鴻臚館ゾーンとして整備されることを切望する。